

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2013年 2月 5日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	准教授	石川 信一
研 究 題 目	児童青年の不安・抑うつに対する認知行動療法の有効性	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究の目的は、児童青年の不安障害、うつ病性障害における認知行動療法（CBT）の有効性を検討することであった。</p> <p>本年度は、先に認知行動療法を実施する（CBT）群とウェイト・リスト・コントロール（WLC）群とに割り付けを開始した。プログラムに参加を希望した対象者とその親については、簡単な事前スクリーニングを行った上で、プログラム開始1週間前に以下の事前面接への参加を促した。事前面接では、半構造化面接、子どもと親に対する質問紙調査を実施した。その後、包含基準と除外基準を踏まえ、同志社大学心理臨床センターに所属する3名の臨床心理士の協議において、参加者の決定を行った。</p> <p>現在は、参加の決定した家族に対して、随時プログラムの実施を行っている。現時点で、15名の割り付けが終了している。認知行動療法プログラムは、申請者のこれまでの研究で作成されたマニュアルに基づき、同志社大学心理臨床センターの相談員が実施した。本研究で採用される親子参加型の認知行動療法プログラムにおいては、親は全セッションに子どもと一緒に参加する。プログラムは全8回、約2か月で終了する。</p> <p>来年度以降も、対象者の募集、無作為割り付け、プログラムの実施、および効果の査定を継続する予定である。</p>	